フォーラムを終えて

和歌山県では初となる両生類自然史フォーラムを 2023 年 7 月 1 日（土）に「きみの自然体験館」で、2 日（日）に「紀美野町文化センター」で開催しました。開催にあたってはアンフィ合同会社、和歌山県立自然博物館友の会、紀美野町自然環境ネットワーク、和歌山県立自然博物館、紀美野町、紀美野町教育委員会、紀美野町観光協会に共催及び協力と後援を頂きました。来場人数は予想していた以上に多く、1 日目が約 400 人、2 日目が 120 人でした。和歌山経済新聞、毎日新聞、テレビ和歌山などのマスコミにも取り上げて頂きました。

当日の様子は会場となった「きみの自然体験館」に早朝からキッチンカーやプペルバス、カエルグッズ、両生類の形を模したパンなどの販売者が集まり、それに伴って県内や大阪から訪れた家族連れで賑わっていました。また和歌山県立自然博物館の高田賢人学芸員による紀伊半島に生息するサンショウウオ類を中心とした両生類展示が会場内ではじまりました。会場入り口には紀美野町自然環境ネットワーク会長の行年恭兵さんが事前準備していた棚田を再現した幅 180 センチの水槽が置かれ、水槽内には稲が植えられ、棚田でみられる両生類が放されていました。本フォーラムの受付は 12 時から開始する予定だったので、その前の午前中は、両生類にかかわるトークイベントとして棚田復活を目指す団体や、本フォーラムに参加した事業者による活動発表が催されていました。その間に続々と大会発表者が集まりはじめ、発表用ポスターを来場者が見える展示室に掲示していただき、13 時から開始となりました。今回のフォーラムではポスター発表が 12 名、口頭発表が 3 名、参加者が約 50 名でした。はじめに日本両生類研究会の高橋久会長から開催にあたってのご挨拶を賜り、つづいて口頭発表となりました。会場内は町内の参加者や学生が多く、他県の両生類の状況や最新の研究に対して新鮮且つ刺激を受けている様子が印象的でした。口頭発表終了後、記念撮影をおこない、展示室に掲示していたポスターを会場内に運び込み、ポスター発表を開始しました。発表の様子はオンラインでも中継され、一人 5 分ずつ発表の録画をさせて頂きました。なお、オンライン及び撮影については準備から当日の録画編集まで高校生の鞍歩さんと、そのお父様の鞍雄介さんお二人にご尽力いただきました。ポスター発表終了後、総会を会場内でおこない終了後はエクスカーションの中田の棚田へ移動しました。中田の棚田は高野山に米を収めていたことから、1400 年代から水田として使われていたことが文献から明らかとなっています。しかし、時代の流れとともに担い手が減少し耕作放棄地が増えています。そのような状況を打開するため 2019 年から熱心な再生プロジェクトが発足し、かつての棚田の景色を復活させる取り組みが行われています。現地では中田の棚田再生プロジェクトの北裕子さん、前畔邦彦さん、行年恭兵さんからの解説を受けて参加者全員で 1 時間ほど夕涼みを兼ねて畦道を散策しました。時々降る雨の中、多くのトノサマガエルやアカハライモリを見ることができました。エクスカーション終了後、今度は懇親会場である美里の湯 かじか荘へと移動し、19 時から開始となりました。さ

らに本フォーラムのスタッフとして尽力していただいていた猪狩元気さんによるライトトラップもはじまり、会場は大いに盛り上がりました。今回、かじか荘様には食事からバス移動、宿泊まですべてにおいてご協力をいただきました。本宿泊施設は町内を流れる貴志川の傍に佇む宿で、たくさんのカジカガエルの鳴き声を聞くことができます。多くの参加者もその声を聴いて翌日目覚めたようです。2 日は紀美野町文化センターにて和歌山県立自然博物館学芸員の高田賢人さんによる基調講演がおこなわれ、参加者には自然博物館友の会が準備していた記念ステッカーが配られました。つづいて高橋会長、埼玉県立川の博物館学芸員の藤田宏之さん、高田学芸員 3 名によるトークセッションがおこなわれ、開発と両生類、特に紀美野町内で見られるニホンアカガエルの保全についての議論がありました。ニホンアカガエルについては和歌山県レッドデータブック 2022 年版において絶滅危惧 I 類に指定されており、急速に生息地が減少していることが明らかとなっています。この問題については紀美野町内のニホンアカガエルがマスコミに取り上げられたこともあり関心が高まっていました。そのため、会場からは多くの質問があり、各先生方から丁寧な回答を受けていました。保全活動については私としてもトークセッション内でご提案を頂いた「イベントを通してのニホンアカガエル調査」を実施していくことで、正確な状況把握と多くの人の関心をもってもらうことで適した保全活動に取り組んでいければと考えています。さいごに、希望参加者に絞り、高田学芸員による博物館のバックヤード見学がおこなわれ無事終了となりました。本フォーラムでは大会招致を歓迎してくださった小川裕康町長をはじめ、玉井済夫様、満福寺様、梶谷産業様、多くの関係者に支えられて開催することができました。皆様に心から御礼申し上げます。

最後に今回使用した会場について少しご紹介させて頂きます。きみの自然体験館は 2020 年まで町の保育所として機能してきましたが、園の移転に伴い廃園となり、2023 年からアンフィ合同会社が民間提案制度を利用して町から借りて運営している施設です。館内は製作部屋と一部の部屋を除いて自由に入ることができるよう無料開放しています。展示室を設けて町内や海外の生き物の標本を展示しています。製作室では 3D プリンターを使った生き物や文化財のレプリカ作成業務を各地の公共施設から受注しておこなっています。運営はアンフィ合同会社と紀美野町自然環境ネットワークで町内の自然体験の中心となれるように活動しています。紀美野町文化センターは町が管理する施設で、約 500 人を収容できる大ホールがあります。こども園と小学校に隣接していることから町内での教育活動や文化芸術に関する拠点として機能しています。これら施設を今後も最大限活用して、自然に関わる様々な分野の団体と共に年に 1～2 回程度フォーラムを開催していきたいと考えています。そして、町内外の人たちに専門家との交流を通して、これまで以上に自然に対して興味関心を持てもらえる運営ができるよう尽力していきたいと考えています。